

NEWS

産業廃棄物処理業における リスクアセスメント研修会開催

- ・日 時：令和6年2月6日（火）
午前9時30分
- ・場 所：名古屋国際会議場
141・142会議室（名古屋市熱田区）
- ・参加者：52名（38社）

職場の潜在的な危険性又は有害性を見つけ出し、これを除去、低減するためのリスクアセスメント研修会が開催されました。

研修会は小坂元信事務局長の司会進行にて始まり、開会の挨拶で伊藤泰雄安全衛生委員長は「本日の研修会を通じて、ひとつでも多く事故、労働災害を未然に防ぐためのリスクアセスメントについて学び、認識を深めていただきたいと思います。まだまだ寒い日が続いておりますが、体調管理を万全に健康で安全な業務活動をお願いします。」と述べました。

次に、講師としてお招きした中央労働災害防止協会 中部安全衛生サービスセンター専門役 安全管理士・衛生管理士の牧野宏俊氏の紹介があり、研修が始まりました。

講義1: 産業廃棄物処理業におけるリスクアセスメントの必要性

- ①危険性又は有害性から労働災害に至る流れ
- ②労働災害の発生と企業の責任
- ③労働安全衛生のリスクアセスメントをはじめよう
- ④これまでの労働安全衛生活動との関係

講義2: リスクアセスメントの基本と実施に向けて

- ⑤リスクアセスメントの法的な位置づけ
- ⑥リスクとは
- ⑦リスクアセスメントの効果
- ⑧リスクアセスメントの導入・実施手順

リスクアセスメントの体験シナリオ

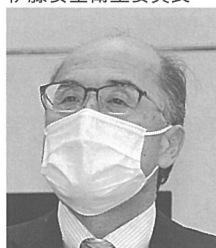
- ・体験1（個人作業）
課題を決めて、危険性又は有害性の特定を行う。
まとめ：大きなリスクは発見できたか。
災害への流れは表現できたか。
- ・体験2（個人作業・グループ討議）
リスクの見積りを行う。
頻度+可能性+重篤度=リスクポイント➡リスク
グループ討議では、課題の作業についてのリスクの見積り結果を1名ずつ発表し、各項目の見積り点数についてグループで討議し意見の統一を図る。
まとめ：リスクの見積り方法が理解できたか。
人によって見積りにバラツキが出ることを体験できたか。
- ・体験3（個人作業・グループ討議）
リスク低減措置の検討を行う。
各メンバーから出されたリスク低減措置の案について、グループ全員で討議し、統一した低減措置案をまとめる。
まとめ：リスク低減措置はハード対策から検討できたか。※作業ルールや教育等のソフト対策では「重篤度」は下がらない！
研修後、堀部隆司専務理事より閉会の挨拶があり研修会は終了しました。



司会進行の
小坂事務局長



開会の挨拶をする
伊藤安全衛生委員長



研修をする
牧野講師

